

## 取組みの方針

### 「自分たちの地域は自分で守る！」の心構えで、 災害に強いまちづくりを推し進める

- ・東日本大震災及び北海道胆振東部地震の教訓を踏まえ、新琴似西地区の住民が周辺の関係機関と協力し、また、札幌市の応援も受けて行う『自発的な防災活動』を推進する。
- ・災害が発生した直後は、交通が麻痺し、火災の同時多発などにより消防、警察などの防災関係機関が十分に対応できなかったり、基幹避難所である学校が混乱する可能性もあることから、このような時に力を発揮できる『地域ぐるみの協力体制』を構築する。
- ・『自分たちの地域は、自分達で守る』という心構えで、日頃からの近所づきあいに努め、いざという時にも助け合える『共に助かるための計画』の策定が重要である。住民の『命』を最優先に、平時の活動と災害時の活動の両方を踏まえて『災害に強いまちづくり』を推し進める。

#### 1) 地区の概要

新琴似西地区は昭和 34 年頃から農地や住宅地が作られ始め徐々に広がり、現在は 8 千 6 百世帯、人口約 1 万 7 千人が暮らしている平地である。地区を流れる安春川は明治 23 年、開拓の時に作られた人工の川である。17 の単位町内会で清掃活動、排雪、防災訓練を行って暮らしを支えている。また、夏のお祭りやイベントも行っている。

#### 2) 災害リスクと課題

歴史事実と科学的シミュレーションにより、災害リスクは『地震(これに伴う火災を含む)』と『風水害』である。

また、全世界に蔓延する新型コロナウイルス感染症の拡大が予断を許さない状況にあることから、感染症対策も視野に入れながら計画の作成を進めている。

#### 3) 取組の概要

計画は過去の災害、特に北海道胆振東部地震を契機に判明した①日頃の防災準備、②災害時の活動の課題を列挙し、役割を本部と 5 つの班に分かりやすく分担し、近所の地域住民の応援も求めることにした。

地区防災計画本編に加え、計画の内容を簡素化した概要版を作成し、周知に活用することとした。

#### 4) 地区防災計画の取組状況

年 月	項 目	内 容
R 2. 6	防災会議	地区防災計画の説明・地域避難運営について
R 2. 9	防災会議	地区防災計画の策定について
R 2.10	地区防災計画に係るモデル地区決定通知	
R 2.10	防災講演会	地区防災計画を作ろう【ご近所力】
R 2.12	防災会議	地区防災計画配布・講演後の取組
R 3. 2	防災会議	地区防災計画の基本方針・自主防災組織図と連絡網・今後3年間の計画方針検討
R 3. 3	防災会議	地区防災計画の基本方針・自主防災組織
R 3. 4	新琴似西連合町内会	地区防災計画の基本方針決定
R 3. 4	連町役員会議	地区防災計画の基本方針と今後の取組
R 3. 5	新琴似西連合町内会	令和3年度 自主防災組織図・連絡網を各単町に提出依頼
R 3.10	防災会議	地区防災計画作成に向けた検討状況
R 3.11	防災会議	地区防災計画の素案作成について
R 3.12	防災部長検討会	これまでの結果報告・防災計画案
R 4. 2	防災会議	地区防災計画のたたき台について
R 4. 7	防災会議	地区防災計画のたたき台について
R 4.11	防災会議	地区防災計画について
R 4.11	双葉町内連絡会	地区防災計画の理解促進（出前講座）
R 5. 3	新琴似西連合町内会	防災講演会を実施
R 5. 8	検討会議	地区防災計画について
R 5.11	地区防災計画WG	地区防災計画概要版について

#### 5) 取組みの様子



防災講演会



地区防災計画WG

## 6) 地区防災計画の概要

新琴似西連合町内会の計画の項目と、計画内容の一部を以下に示す。

## 計画の構成

- ・ 基本方針
- ・ 新琴似西地区が取り組む  
【平時の活動】
- ・ 新琴似西地区が取り組む  
【災害時の活動】
- ・ 安否確認の仕組みを整える
- ・ 避難誘導の方法について
- ・ 避難所の開設と運営
- ・ 決め手は【ご近所力】
- ・ 今後の検討事項
- ・ 【資料編】主な防災活動

【第2章：計画本編】

### 1. 基本方針

- (1) 東日本大震災及び東北震災直後被災地の被害状況を踏まえ、両府県沿河地区の住民が震災の影響及び復興と盛衰し、また、札幌市の近郊でも行方不明等の状況が深刻化していることを鑑み、また、札幌市の近郊でも行方不明等の状況が深刻化していることを鑑み、この二つの方面に力を配する必要があることと認識され、今後の対応について協議することとする。
- (2) 災害が発生した関係は、交通が滞り出し、火災の同時多発などにより学校の安全などの防災面において十分に配慮できなかった。児童・生徒の避難場所や避難経路を確保することが必要であることも、このように専門的な力を活用することで今後どうするか協力体制を構築する。
- (3) 「自分たちの地域は、自分自身で守りたい」という構えで、日頃から身近なところから始め、努めていこうという気持ちで合える「まちづくりのための非営利」の策定が必要である。元々の（注）を最後に、平均的知識と実務力のばさる両方を備えた「まちづくりの専門家」を支援していく。

## 2. 新琴似西地区が取り組む【平時の活動】

当連町は、計 17 の半町から構成されており、それらの半町の防災は、自主防災組織図のとおり、半町「防災本部」（以下「半町本部」という。）と二つの部から成る。

（資料2参照）

連町防災本部（以下「連町本部」という。）は、それらを統括する。

#### A. 単町の平時の活動

性成メンバーは、

- 単町本部：単町役員
- それぞれの班：単町役員・班長・会員

#### ＜単町本部の役割＞

- 県町全体を把握する。
- 防災知識の普及、啓蒙
- 北沢役所、北沢警察、各学校、連町木部等との連携、調整
- 連町防災部員のもと、訓練や防災研修会などの行事を計画し、各班とともに実施する。
- 17 町では、それぞれの避難場所、避難路を決め連町に報告する。
- 簡易な防災マップ・災害時安全確認カードの作成
- 安否確認必要書類の作成（まちづくりセンターの協力必要）

-3-

### ①新琴似西地区が取り組む【平時の活動】

### 3. 新琴似西地区が取り組む【災害時の活動】

- 市民運動の中心は「市民運動連合大会」市民運動協議会（資料①）
- 市民運動協議会は連合を形成する。協議の内容は「○○で、地域（水戸）に発展」
- 発展したことで、たまたまより連合自治防衛部会を形成します。連合部会によって、連絡をしてくださいます。
- 警察の羽にたてたのがたまたまの場合、警察として予め連合市長・副市長は連合部会役員と合意する。
- 各町内には「自治防衛協議会、連絡協議会（資料②③）」に就いて連絡し、情報交換をする。
- 警察が暴走した時は、未だ自分・近隣の安全を確保してから町内会の自治防衛活動の展開にいく。
- デモ隊などの反逆の準備は、二次災害の危険があり注意する。

## B. 単町の災害時の活動 ※構成メンバーはAと同じ。

- ＜半町本部の役割＞
- 連町本部から災害緊急命令の連絡を受け、半町の【自主防災組織・連絡網】に沿って各班に連絡する。
  - 各班の伝言状況を把握し、連絡・復命を行う。
  - 災害発生状況などを町町本部に報告する。

絡網【町内会】

FIL.
FEL
FUL
FIL
FU.
FU.
FU.
FU.
FEL.
FEL.
FEL.
FEL.
FU.
FU.
FU.
FU.
FEL.
FEL.
FEL.
FEL.
FU.
FEL.
FEL.
FU.

※ 会長、副会長、正副部長、正副班長は町内会役員がある町には、町内会の部長、副部長、会員若干名がある。

## ※ 地域住民の心得

- **別紙資料**の「これだけは準備しておきたい！」(家庭版)を理解し実践する。また、日頃から火災予防対策を講じる。
- **別紙資料**を参考に、各世帯がA4サイズ1枚程度にまとめた簡単な防災マップ・別紙メモ(災害時安全確認カード)を作成する。住民が保健医・消防等と一緒に保管しておき、災害時に非常持出袋として持ち歩きと避難所まで速果を搬送する。
- **事前準備**：災害が発生する前から予想して、復興計画を立てておくことと積極的な啓発活動。

7. 決め手は【ご近所力】

『地区防災計画について』書評：梶屋 一 教授のお言葉より抜粋

★ 社会関係資本

人や地域の繋がり—信頭の間—こそ近所力

※【ご近所力】こそが安心安全の源泉である！

★ これからの防災は？

損失を減らす防災から【価値向上型】の防災へ

※日常から人間関係、近所関係を良好にし、魅力ある地域を作る→災害や危機にも強くなる！

★ 具体的に

- 近所所と挨拶を交わしている。
- 民生委員や町内会役員を知っている、自治会・PTA等の仲間が5人以上いる。
- いざという時に、助けにきてくれる人が近所にいる。
- 家族の親族、友人情報等（可憐な顔）を近所の方と共有している。

- 10 -

## ②新琴似西地区が取り組む【災害時の活動】

③決め手は【ご近所力】

# 新琴似西連合町内会

## 地区防災計画

### 概要版

新琴似西連合町内会 令和6年5月



#### 1.基本方針

##### 「自分たちの地域は自分で守る！」

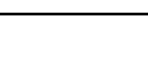
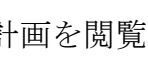
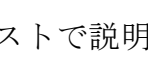
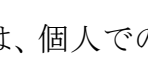
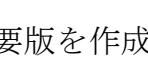
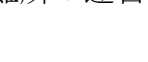
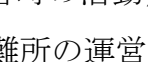
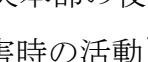
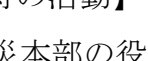
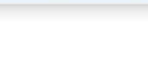
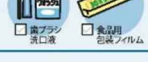
この防災計画は皆が一線に助かるための計画です。  
 <平時の活動>と<災害時の活動>の両方を踏まえ  
 「災害に強いまちづくり」を地道対策を急進に推し進めます。

#### 土地を知る

- ・避難所、避難の場所を防災マップで確認し避難訓練してある
- ・災害の被害予測をハードマップで知る
- ・自宅周辺の危険な場所を確認（ブロック塀、土手、古い建物など）

#### 防災メモの準備

- ・冷蔵庫のドアなどに貼っておく
- ・携帯用も作成し持ち歩く
- ・情報を更新する
- ・名前、住所、連絡番号、生年月日、血液型、医療情報、緊急連絡先、勤務先や学校等所属を記入



### 3.新琴似西地区が取り組む災害時の対策

#### (1)地震発生時の取組み

- | 揺れが来た      | 揺れがおさまった    | 避難する場合            |
|------------|-------------|-------------------|
| ・まず身の安全を守る | ・火が出たらすぐに消火 | ・ブレーカーを落としガス栓を締める |
| ・素早く火の始末   | ・家族の安否確認    | ・ラジオやテレビで情報収集     |
| ・出口の確保     | ・風呂に水を溜める   | ・徒歩で避難（家族に行先メモ）   |

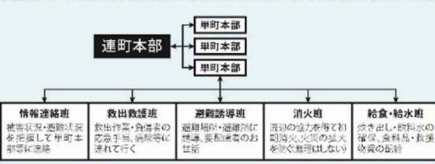
#### (2)新琴似西連合町内会防災本部設置

地震5級以上の地震発生時は、地域の情報収集・発信のため、新琴似西連合町内会防災本部を設置する。災害発生時は、連町自主防災連絡網（に）によって連絡し報告を受ける。連町防災本部は、計17の単位町内会防災本部を統括する。

- | 地震5級以上の地震が発生                       | 1時間以内に連町事務所に「新琴似西連合町内会防災本部」を設置 | ・災害発生状況<br>・避難所<br>・復旧状況<br>について単位町本部と情報交換、行政等へ報告 |
|------------------------------------|--------------------------------|---|
| 連町会長・副会長・防災部（部長・部長）は1時間以内に連町事務所に集合 |                                |   |

#### (3)17の単位町内会防災本部の役割

それぞれ単位は会長宅に防災本部を設置する。「自主防災連絡網・連絡網」に従って行動する。災害発生時に連町本部から連絡を受け、単位本部は各速に連絡し、置からの情報を連町本部に伝える。



※概要版はA3用紙の2つ折り

### ④概要版

## 計画の説明

### ①新琴似西地区が取り組む【平時の活動】

平時の連町防災本部と単町防災本部の役割や、単町防災本部各班の役割を整理した。

### ②新琴似西地区が取り組む【災害時の活動】

災害時の役割、避難誘導や避難所の運営方法を整理した。

### ③決め手は【ご近所力】

防災講演会でのキーワードを引用し、日常より人間関係を良好にしておくことの大切さを掲載した。

### ④概要版

全戸配布する目的で計画の概要版を作成した。避難所の位置などを確認できる防災マップを表紙に用いた。内面には、個人での平時の対策や、災害時の連町防災本部と単町防災本部の役割を、図やイラストで説明した。裏面には安否確認の仕組みや避難の流れ、ホームページで地区防災計画を閲覧できる QR コードを掲載した。